

ミカンの黒点病

流れるような雨なら雨後散布

黒点病が毎年出ます。雨の前に薬剤散布したほうがいいのはわかってるんだけど、なかなか難しい……。毎回雨の前じゃなきゃだめなのかな？



大分●小原 誠

雨前に殺菌剤、雨後に殺虫剤が原則

兼業農家でしたが5年前に早期退職し、果樹の苗木を2000本植え、カンキツ2.5ha、クリなど0.5ha、計3haの専業農家になりました。近年温暖化の影響が顕著で、わが家でも昨年は7月の西日本豪雨で350mm、9月の台風24号で200mm以上の雨が降りました。温州ミカンでは、特に黒点病や浮き皮、貯蔵性の低下などが問題になっていきます。

果樹防除の大原則は、殺菌剤は雨前に予防散布、殺虫剤は降雨後散布です。例えば、リンゴやナシの黒星病、カンキツのかいよう病は、雨前に予防散布しないと効果が半減。いっぽう殺虫剤やマシン油は、散布後に2〜3日天気が続かないと、防除価が低下します。黒点病も雨前散布が原則ですが、基本的な防除間隔は、果実の肥大期（6〜7月）は積算雨量200mm、成熟期（8月）は250mm、もしくは雨が



温水治療の様子

があることがわかりました。3年間で約300本に温水処置を施しました。今のところ再発しているところはありません。これからも、どんな処理本数を増やしていきたいです。まだまだ白紋羽病の温水治療は新しい技術です。今後も改良を加え、施用効果などを継続的に確認していこうと考えています。

（栃木県宇都宮市）

イチゴ・メロン 花粉交配のご用命は!

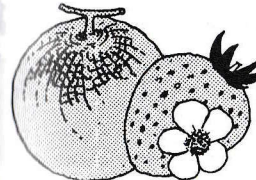
みつばち



みつばちと養蜂具

カタログ進呈

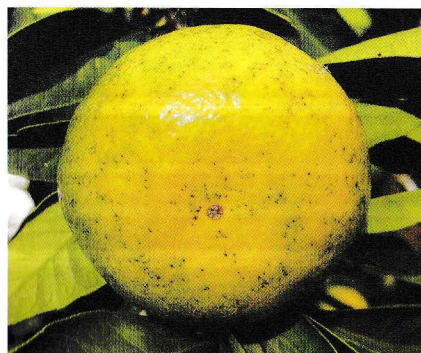
「現代農業」と明記の上、ハガキ又はFAX又はホームページ内のカタログ請求画面へ、ご住所、お名前とお電話番号を記入の上、当社へお送り下さい。



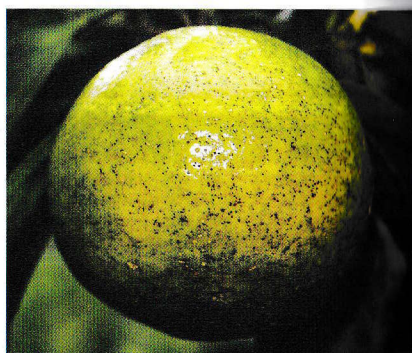
まむろようほうじょう  
(有) 間室養蜂場

〒355-0134 埼玉県比企郡吉見町大串1257の3  
TEL 0493(54)2381 FAX 0493(54)0093

http://www.mamuro-yoho.com info@mamuro-yoho.com

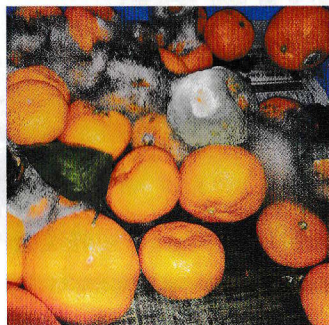


秋雨で感染した後黒点（小黒点）病の被害果



梅雨時期（前期）の典型的な黒点病被害果  
（写真提供：大分農林水研・橋原稔、左も）





黒かび病の被害。点検や除去が遅れると5段積みコンテナの下まで1カ月で腐敗する

を逃さないことが重要で、わが家では自作の雨量計を使い、適期を見極めます(2013年6月号参照)。1回目は5月下旬〜6月上旬、マンゼブ剤600倍にマシン油(1000〜1500倍)を加えて耐雨性を3000mmに高めます。積算雨量が2000mmになった時点で、週間天気予報を見て、はじめと雨が続きそうなら雨前、夏の夕立や台風、梅雨末期の大雨予想なら雨後に散布します。先に述べたように、はじめじめした雨が続き、雨に濡れた状態が一定以上あると黒点病は感染するからです。一方、流れるような雨であれば

### 後期黒点にも要注意

後期黒点(小黒点)は秋雨で感染します。従来は気温が低下する10月には発生しないとされていましたが、温暖化と秋雨でそれ以降にも発生するようになっていきます。梅雨期の黒点と症状が異なり、特に9月末から10月の感染は緑斑が残るだけなので、着色遅延だと思ひ込んでしまう農家も多いようです。

3回目の防除は通常8月下旬に、マンゼブ剤600倍をダニ剤などと混用

ヤマホの強力キリマシン3頭口ノズルで薬剤散布中の筆者。通常ノズルの1.5倍、1分で12ℓの薬剤を散布できる



### 夕立や台風などの大雨では感染しない

黒点病の感染には、樹が雨に濡れている状態が、夏期でも12時間以上必要です。たとえ薬剤の残効が切れても、晴天の日には感染しません。また、雨が降ったとしても、流れるような雨

降らなくても前回散布から1カ月です。しかし、雨の多い年は複数回の防除が必要となり、黒点病防除に最も有効なマンゼブ剤(ジマンダイセンMなど)は年4回しか使えないので、マンネブ剤(エムダイファーマなど)やデランM、ファンタジスタIIなどの使用が各県で検討されています。農協では100点満点を目指すためにこういった指導をしますが、おはら果樹園では黒点病の感染の特性と雨の性質を考慮し、マンゼブ剤4回で90点の防除を実施しています。

### はじめ雨なら雨前、大雨なら雨後

梅雨時期の防除は、雨と果実の肥大により薬剤が薄まるので、積算雨量200mmでの散布が基本です。散布適期

なら菌が定着せず感染しないのです。したがって、夏の夕立や台風、梅雨末期の大雨などではほとんど感染しません。ここが、かような病や褐色腐敗病と大きく異なる点です。

この特性を踏まえ、わが家では梅雨時期に2回、秋雨時期に2回の防除で毎年黒点病をほとんど出していない。



雨量計。左は筆者の作品、右は一色本店の商品で1980円。一色本店 TEL089-922-4141

散布 4回目は2500mmの積算雨量を目処に、収穫に近い極早生以外に、9月中下旬に散布します。このとき、温州ミカンではマンゼブ剤400倍で防除することで、褐色腐敗病の対策にもしています。

### 冬期の温暖化で黒かび病が激発

昨年、貯蔵品種の収穫期は気温が高く、雨が多く降りました。そのため、果実の体質が弱く、収穫後に腐敗し苦労しました。これは本来は貯蔵後半に発生する黒かび病だと、『カンキツの病虫害』(田代暢哉・増井伸一著、全国農村教育協会)を読んで知りました。私は柑橘試験場や普及所で30年以上勤めましたが、専門書や雑誌でも黒かび病を見たことがありませんでした。黒かび病は日本では登録農薬がなく、腐敗した汁や胞子が付くと隣接する果実が次々に腐敗し、大きな問題となっています。今のところ対策は低温貯蔵と感染果実の早期除去しかありません。(大分県中津市)